

躍進岐山みんなの会 実施報告書

School Rules
All Hands Conference
Implementation Report

はじめに

この報告書では、2025年（令和7年）1月16日（木）に行われた「躍進岐山みんなの会」にて参加した生徒から収集した意見と、その考察を記載しています。

躍進岐山みんなの会のミッション

“岐山高生らしさ”とは何か、時代に合った校則(指定の制服、スマホの取り扱い、アルバイトの申請等)であるかを考えるため、岐山高校に関係する多くの人々が集い、多種多様な意見や考えを伝え合いながら、建設的な考えを構築する話し合いの場とする。

また、校則等の規則が改定されていくプロセスを関係者が情報共有するとともに、他者の意見を受け入れ、自身の意見や考えを伝えることを通して、相互の理解と交流を深めるきっかけとし、より良い学校生活環境を整える一助とする。

生徒が考える

岐山高生らしさとは

アンケート結果

総括

「自由でありながら、主体性や自主性を持ち、常識や規律を守って行動できること。」

回答で多く使用されたキーワードと詳説

「自由とは」	校則は緩いが、自分で考えて行動できること。
「主体性・自主性」	自分で判断し、責任を持つこと。
「常識・規律」	節度を守り、TPOをわきまえること。
「真面目さ」	勉強や学校生活に真面目に取り組むこと。
「個性」	多様な価値観を尊重し合うこと。

考察

アンケート結果から、「自由」という言葉が回答の半数以上に含まれていることが分かりました。これは、岐山高校のこれまでの取り組みが影響していると考えられます。

令和5年度に、頭髪の色や化粧に関する校則を試験的に廃止し、生徒自身がルールの意味を考えるという活動を行いました。この取り組みを通じて、生徒たちは自由な環境の中で自己表現や自主性が尊重されることを実感しました。

また、校則の一時廃止により、生徒は自分らしさを表現しつつ、規律や節度を守ることの重要性を再認識しました。

以上の理由から、このアンケートで「自由」という言葉が多くなったと考えます。

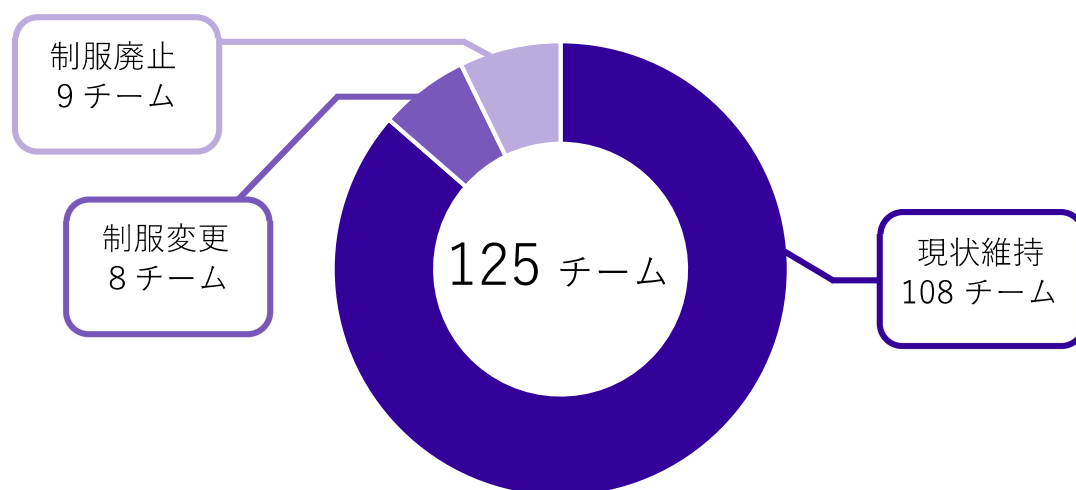
また、「自由」以外にも、岐山高生は「真面目である」や「自主性がある」といった回答が多くありました。

生徒が思う これからの岐山の あるべき制服

アンケート結果

Q.今後の岐山高校の制服について以下の選択肢から選択してください。

- ① 現状維持 ② 制服変更（デザイン等の変更） ③ 制服廃止



2025.01.16「躍進岐山みんなの会」にて各チームが回答(有効回答のみ)

令和 8 年度以降入学生の制服についての課題

現状維持派が多数だが、少数派意見をどう捉えるか

多くの方が現状維持を選択しましたが、制服変更や制服廃止の意見も一定数あるため、それらをどのように反映させるかが課題となっています。

費用や導入スケジュールの問題

新しい制服の導入には時間とコストがかかります。また、新しい制服が令和 8 年度の入学生に間に合わせる事が可能かどうかを検討する必要があります。

購入の問題

現在、制服の着用が求められる日以外は、制服を着用するかどうかは各自の判断に委ねられています。制服を購入しても着用機会が年に数回に限られる人も多く「もったいない」と感じることもあります。

特に、いわゆる学ランは、卒業後に着用することもなく、首周辺の苦しさなどもあり、今後着用することや社会の流れを考えると、スーツなども有効な選択肢と考えます。

生徒会が考える 生徒が 岐山に感じていること

岐山高生の現状

- ・校則の緩和によって自由度が増加した。
- ・節度を守った学校づくりが行われている。
- ・勉学に前向きに取り組む人が増えている。
- ・遅刻をする生徒が一定数存在する。

総括

岐山高校では校則が緩和され、自由度が増した一方、節度を守った学校づくりが行われています。現行の「頭髪や化粧」等の規程は、「清楚を旨とする」や「学校生活にふさわしい」といった表現に留めており、自己判断とその責任が求められています。

しかし、本来の意図と異なる解釈がなされる場合もあり、校則を極端に解釈する生徒がいることも事実です。さらに、基本的な生活習慣が身についておらず、遅刻を繰り返す生徒が一定数いるのも本校の現状です。

今後、このような生徒を減らすためにはどうすればよいかを、生徒会で検討する必要があると考えますが、校則改定の意図が後世に引き継がれなければ、岐山高校のよき自由な校風が損なわれる恐れがあります。そのためにも定期的に学年やクラスに関係なく意見交換を行い、校則改定の意義や目的を後世に引き継ぐ機会を設けます。

今回の議題である制服については、現状維持を望む意見が大多数を占めています。しかし、今後入学する生徒たちの実情を考慮すると、新たな制服のあり方を引き続き検討する必要があると考えます。